

○議長（井上勝彦君） 順番3、14番 中本浩精君。

〔14番（中本浩精君）登壇〕

○14番（中本浩精君） 議長のお許しを得ましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

このたび、21世紀を生きる子どもたちの「知、徳、体」の向上に向けて質問をさせていただきます。よろしくお願いたします。

日本は、先輩方、先人たちのおかげで、世界の中でも類のない豊かな平和な国となっております。このまま将来も平和で豊かな国として、ずっと歩いていくことができるでしょうか。

私は、将来に向かっていく上において、さまざまな方面で陰りやひずみが見えてきていると思います。便利追及社会から、幸せ実感社会への転換が求められているのではないのでしょうか。

日本は人口減少社会に向かっており、当市におきましても、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、少子化が進んでいく中で、学校の適正規模、適正配置が議論されています。人口減少社会は、経済の問題をはじめ、未だ経験したことのないさまざまな社会問題が起きることが予想されます。

将来を担う宝である子どもたちは、将来、こうした厳しい社会を強くたくましく生きていかなければなりません。学力や体力、意欲や規範意識など、さまざまな課題が見られる中で、一人ひとりの子どもが自立し、よき社会人として社会を形成する役割を担っていき、先を見通した教育のあり方を、今一度真剣に考えなければならない時期に来ていると

思います。

そこで、このたび、橋本市の子どもたちに対して、教育の中心的役割を担っていただいております教育委員会に質問させていただきます。

一つ目、家庭教育の支援についてお伺いたします。二つ目、幼児教育の振興についてお尋ねいたします。三つ目、学校教育の推進についてお尋ねいたします。四つ目、社会教育の振興についてお尋ねいたします。

以上、ご答弁のほど、よろしくお願いたします。壇上からの質問を終わらせていただきます。

○議長（井上勝彦君） 14番 中本浩精君の、21世紀を生きる子どもたちの「知、徳、体」の向上に関する質問に対する答弁を求めます。教育長。

〔教育長（松田良夫君）登壇〕

○教育長（松田良夫君） 橋本市教育委員会は、「21世紀を生きる人づくり」を目的に、橋本市に誇りを持ち、これからの橋本市を担う活気と責任、自覚ある人づくりを進めるため、「人づくりはまち全体で行う」という基本方針を定めています。

21世紀を生きる人づくりは、生涯学習社会を生きる、生涯学習社会の構築に参画する人づくりです。生涯学習によるまちづくりのためには、人づくりを家庭教育、幼児教育、学校教育、社会教育と時系列としてとらえるとともに、学校教育施設や社会教育施設、その他、地域におけるさまざまな場所や機会、子ども同士、大人と子ども、大人同士など、異年齢の交流や触れ合い、学び合いの場を構成していくことが大切であると考えています。

そのため、家庭教育、幼児教育、学校教育、社会教育について、それらの発展性や関連性に考慮しつつ活動方針を立て、教育の充実に努めています。

まず、家庭教育の支援についてですが、教育の原点は家庭であると言われていています。家庭教育支援、子育て支援の取り組みから、園・学校、家庭及び地域社会等の相互の連携協力をめざしています。そのため、子育て中の家庭を支援する「子育て・親育ち」講座等を、保育園やこども園・幼稚園、学校、公民館などと連携し、計画的に開催しています。講座等は、橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」にお願いし、話題や活動を設定し進めるスタイルのものや、専門家によるものなど、計画的に実施するとともに、園・学校、地域からの多様な要望にもこたえた支援も行っています。

ここでは、互いに語り合い、学び合うなど参加することを基本として、保護者と教職員が信頼し合う関係づくりや、地域での日常的な人と人とのつながりに結び付け、園・学校を核に地域で広がる家庭教育支援、子育て支援をめざしています。また、子育てについての悩みなどの相談、個別的な支援に対応した取り組みも進めています。

次に、幼児教育の振興についてですが、幼児期は、義務教育及びその後の生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期です。幼稚園では、適切な環境構成のもと、幼児が保育者や他の幼児との関係を深めながら、主体的、自主的に活動できる特色ある園づくりをめざしています。また、幼稚園から小学校へという子どもの発達や学びの連続性を大切にするため、こども園・保育園・幼稚園と小学校との連携を進めています。保育者や教職員による相互参観や合同研修を行い、橋本市幼児教育統一カリキュラムの実践による研修を通し

て、互いに目標設定や方法論を学び合い、より充実した保育・教育に努めています。また、幼児同士や幼児と児童との交流などを計画的に実施し、多様な体験や幅広い触れ合いの場を設定しているところです。

各家庭との連携にあたっては、保護者の相談を受けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたり、保護者同士が語り合い、学び合ったりするなど、保護者が幼児期の教育の理解が深められるような場の設定にも取り組んでいます。

次に、学校教育の推進についてですが、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」、これらの能力・資質は、子どもたちが自分の将来を豊かに切り開いていくとともに、市民として生涯学習社会に参画していく基盤となる「生きる力」です。

橋本市教育委員会では、「生きる力」に視点を当て、子どもたちの育ちを連続的に促していくため、保育園・こども園・幼稚園と小学校との連携、そして小中一貫教育に取り組んでいます。さらに、小中一貫教育推進のため、各中学校区で小・中学校が教育目標を共有し、学力、豊かな心、健康・体力に視点を当て、教員の授業の相互乗り入れ、授業参観、合同研修会をはじめ、児童生徒による主体的・自主的な交流活動など、小学校から中学校への連続した取り組みの充実を図っているところです。

子どもたちは、異年齢でのさまざまな活動や、教師や親以外の多くの地域の大人との触れ合いから多くのことを体験的に学び、人間として成長していきます。一方、親も我が子以外の多くの子どもとの触れ合いから学ぶことがたくさんあります。その環境づくりのため、「開かれた学校」として家庭や地域に働きかけ、また、家庭や地域社会からの支援を受け、要望にこたえながら地域社会全体で子ど

もを育てる取り組みを大切にしています。

次に、社会教育の振興についてですが、子どもから高齢者まで生涯にわたって学び、豊かに過ごしていくため、地域の中で世代を超えて交流し学習成果を分かち合う、生涯学習社会の形成をめざすことが大切です。そのため、生涯学習としてさまざまな分野で活躍している人や、サークルなどで活動をしている人、専門的な知識や経験を持っている人がお互いの活動や学習成果を交流し合い、また、持っている力を役立ててもらおう場の設定に努めています。

その場の一つが、子どもが集まり学んでいる幼稚園や小・中学校です。「きのくに共育コミュニティ推進事業」、「放課後子ども教室推進事業」、「学校図書館ボランティア活動」など、地域の大人が園や学校の要望にこたえ、子どもたちの指導や支援という活動から、ともに学び合い、学校、家庭、地域社会の連携の強化に努めていくことが大切です。

そして、さまざまな世代を対象に、魅力ある新たな学びの場を計画的に設定し、そこで学習の成果を発表し合い、交流する機会を公民館や社会教育施設などで実施し、地域でのつながりを広げ、子どもが地域の大人に学び、大人が子どもを見守る地域づくりをめざし、取り組みを進めていますので、ご理解、ご支援をいただきますよう、よろしく申し上げます。

**○議長（井上勝彦君）** 14番 中本浩精君、再質問ありますか。

14番 中本浩精君。

**○14番（中本浩精君）** ご答弁いただき、ありがとうございます。各方面、各分野でよく考えていただき、しっかりとした子どもたちへの教育をしていただいていることがよくわかりました。

子どもたちが立派に成長してほしいと願う

のは、だれもの思いであると思います。私は、現状の教育について批判するつもりはありません。先ほども申し上げましたように、よくご尽力いただいていると思います。しかし、さまざまな課題がある中、家庭、学校、社会の連携の中で、より一層子どもたちへの教育について考えていただくことが、将来を担う子どもたちのためには非常に大切だという思いで、このたび質問をさせていただきました。

そこで、再質問に入らせていただきます。まず、教育長は現状の教育について、このままでいいと思っておられますか。教育長のご意見を聞かせてください。

**○議長（井上勝彦君）** 教育長。

**○教育長（松田良夫君）** 今、さまざまな子どもの問題が指摘されてございます。大日向雅美さんという発達心理学の非常に有名な先生がいらっしゃいます。この方がこんなことをおっしゃるんです。例えば、今、子どもの問題として、いじめとか不登校であるとか、あるいは引きこもりであるとか、あるいはニートであるとか、あるいは虐待もあるかもしれません。そんなさまざまな問題については、母であるとか父であるとか、子どもを産んだことがあるとかないとか、そういうことに関係なしに、すべての大人が子どもという存在に関心を示して、彼らの未来を語り合うような、彼らの一人ひとりを心配するような、そういう社会にしなければ、今言われている問題は解決されないのではないかという問題提起をしてくれています。

それは何かといいましたら、あらゆる家庭、あるいはあらゆる発達段階の子どもが、いろんな方に、地域で、学校で、見守られながら、願われながら存在している、そういう環境をつくらなければならない。それが今、最も求められる教育環境である。子どもを見守る地域社会の環境である。そのことを別の言葉で

言いあらわしたら、生涯学習社会、生涯学習社会に参画する人づくり、それをいわゆる家庭教育支援、幼児教育、学校教育、社会教育、その連続性の中で、そういった社会をめざしていくことが大切であると、そういうふうな考え方をまず持ちたいと思います。

そのために橋本市教育委員会では、人づくりは地域全体で行う。それはまさに子どもという存在を地域全体で見守り、そして彼らの将来を願う。そういう環境づくりが大切であるという前提で、そういう四つの場面で時系列、関係性をとらえて、橋本市としての方針を立てているところでございます。

以上です。

○議長（井上勝彦君）14番 中本浩精君。

○14番（中本浩精君）教育長、どうもありがとうございました。非常に前向きな、熱い気持ちを持っておられる教育長だということがよくわかりました。教育者のかなめとして、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、家庭教育の支援、幼児教育の振興、学校教育の推進、社会教育の振興について、もう少し具体的な取り組みを教えてください。また、橋本市独自でされているお取り組みもあれば、お教え願えますか。よろしくお願ひいたします。

○議長（井上勝彦君）教育長。

○教育長（松田良夫君）特に、家庭教育支援につきましては、壇上での答弁でもお答えさせていただきましたように、子育て中の家庭を地域で支援していく体制、それをいかにつくっていくのかということが一つ大事な課題になってきています。そのために、今、地域における人と人とのつながりが随分断絶されている。そのためには親が自分の子どもを語る場面、あるいはよその子どもを見る場面、そんなものをつくって行って、そこで語り合って、知り合いになる。そして、お互いの悩

みを語る中で、いわゆる課題を共有したりできる、そういう場面をつくっていくことによって日常的な子育て支援の輪ができていく。そういう願いを持った取り組みをやっていきます。そのことは、いわゆる支援を受けた者は、やがて将来支援者にもなり得るといふ、そういうことも考えながら取り組んでおります。

去年取り組んだ特徴的なものを一つ挙げろということになりましたら、共育ミニ集会、共育というのは、ともに育むと書くんですけども、共育ミニ集会というものを、県の要請もあつたんですけども開催しました。15箇所で開催する中で、700人ぐらいの参加がございました。橋本市はこういう集会をするときに、すごいいいシステムを持っています。ほかの地域では、こういうミニ集会、いわゆる参加型、語り合う、そういうことを前提としたミニ集会を持つためには、ファシリテーターというのがなかなか見つけるのが大変やという状況もあるようです。ところが橋本市においては、家庭教育支援チーム「ヘスティア」がすごいスキルを持ってくださっていますので、そういうところがすぐミニ集会を機能させることができるところで、非常に特徴的なことがあると、そういうふうに私自身も、大変その家庭教育支援チームについては感謝しているという状況があります。

そのことから言うたら、次の課題になるのは、共育ミニ集会ででき上がったつながりが、本当に地域でのつながりになっているのかどうか。さらに、これを地域のつながりに深めていくというか、そのためには何をこれからしていかなんのかというところは、次の課題になってくるのかなと思います。

それと、幼児教育につきましては、橋本市では早くから、いわゆる幼児教育機関と小学校の連携、幼児教育機関同士の連携、そのあたりに取り組みました。今、幼児教育も大変

いろんな課題を抱えていると私自身思っています。幼児教育と一口に言うんですけれども、いわゆる幼児教育機関での教育、幼児教育というのはそれだけを指してしまいそうなんですけれども、実は家庭での幼児教育、あるいは地域社会での幼児教育、これらを総合した中で、幼児というのは育っていると思います。

そういった意味でも、幼とか小、あるいはこども園、保育園が連携することによって、家庭や地域社会で育つべき能力は何だったんだろうかというところを検証していく中で、幼児教育機関で新たにどういった取り組みをせんなんのか、そういうことも話題になってきています。そのためには、いわゆる異年齢の集団体験であるとか、あるいは地域の大人との体験であるとか、あるいは小学校での学びにつながる体験であるとか、そんなことも橋本市では取り組んでいるというのが、一つの特徴的な部分かと思っています。

それと、橋本市研究委託事業というのがありますが、家庭でどんな取り組みが必要なのか、そういうことも今年、ある幼稚園を研究指定して、そういう研究にも取り組んでいただいている状況です。先ほど壇上で答弁させていただきましたように、統一カリキュラムの検証を通じて、今年もさまざまな研究に取り組んでいきたいと思っています。

それと、学校教育につきましては、今年は特に、各学校で自己評価というのをやるんですけれども、自己評価の視点として、二学期制の検証。二学期制をより価値あるものにするために、どういう方法論があるのか、そして、それを具体的にどう評価するのかをお願いしています。

それと市民性の教育。市民性の教育といったら、市民として地域に参加していく。その中で規範意識を学び、責任のある自分というものを自覚する。そういうのが市民教育の願

いやと私は思っておるんですけども、市民教育のことについても、その方法論と評価、その方法論に基づく評価をしていただきたいと言うてます。それと小中一貫教育についても、方法論を研究して評価の対象にしてほしいとお願いしています。

そしてもう一つは、今、最も心配されている防災・安全教育。これについても方法論を立てて評価してほしい、こういうお願いをさせていただきます。

特徴的なことを言えといいましたら、このくらいのことになるんですけども、社会教育としては共育コミュニティの推進、より開かれた学校として、地域の方がどんどん、どんどん学校に集まってきてもらっているという、そのことから社会教育につなげていくというような、そんな取り組みも橋本市は大事にしています。

まとめて言えば、いろんな人に子どもたちを見てもらう機会を拡大していく。それで子どもの成長を、いわゆる連続性でとらえていく。そういう学校教育、社会教育、幼児教育、家庭教育支援をめざしたいというのが、私たちがとるスタンスなんです。いろんな方に子どものことについて興味を示してもらおうということが、しっかりした子どもを育てていく地域の基本ですので、その点については、議員の皆さんのご支援もお願いしたいと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。

○議長（井上勝彦君）14番 中本浩精君。

○14番（中本浩精君）どうもありがとうございます。本当に各方面でご尽力いただくこと、ありがたく思います。

次に、今、ご説明いろいろいただいたんですけど、学校教育の推進についてを中心に質問させていただきたいと思います。児童生徒一人ひとりをいかに成長させてあげられるか、それは教育者の使命であると言っても過言で

はないと僕は思います。児童生徒の育成について、少し踏み込んで聞かせていただきたいと思います。

今、ご説明いただいたように、各学校では、主体的にさまざまな取り組みをしていただいていることがよくわかりました。それらの取り組みをさらに推進していくために、また、教育委員会の方針を立てたり、効果的な支援を行ったりする上で、教育委員会事務局や教育委員が、現状の的確な情報をつかんでいるということが大変重要なことだと思います。まず、学校の生の情報を直接聞く機会はあるのですか。

○議長（井上勝彦君）教育長。

○教育長（松田良夫君）百聞は一見にしかずという言葉がございます。実際、子ども学校へ行かせていただいて、授業の様子、子どもの様子を見せていただくことが、まず基本になるかと思えます。そのためには、定期的に学校訪問させていただいています。その学校訪問をさせていただくときには、すべての授業の様子を見せていただきます。子どもたちの様子を見せていただきます。そして、研究授業を提供していただきます。1時間の授業を、どういう目標を持って、どういう流れで授業をしているのか、そういう授業の様子も見せていただきます。そして、研究協議といまして、約1時間、2時間程度で学校の課題、あるいは子どもの課題、これから学校が取り組みをしようとしていること、そういうお話を聞かせていただき、その中で、教育委員会としての考えもお伝えさせていただいています。

この学校訪問につきましては、定期的に必ず年1回実施させていただいております。それ以外にも、要請訪問といまして、ぜひこういう点で学校が困っておるので、ちょっと知恵を借りたいとか、ちょっとした助言を欲

しいとか、そういうときは、要請をいただいて授業を見せていただいたり、研究協議をしたりとか、そういうところにも行かせていただいています。これは、主に指導主事が行っています。私もほかの会議等々のないときは学校訪問、必ず行かせていただいて、子どもの様子を見せていただくこととしております。つい最近も2校ほど学校訪問に行きました。今週も1校行く予定しております。できるだけ学校訪問に行きたいと思っています。

それと、教育委員方にも学校訪問をお願いしております。授業を見せていただきます。そして、学校長からいろいろ学校の課題を聞かせていただくという機会をとってございます。

ほかにも、校長先生方が互いの取り組みを交流し合うという場面としては校長会、これは月に1回開催してございます。教頭会、それから幼稚園長会、そういう会も定期的に開きながら生の声を聞かせていただく。そして、市内全体でそれぞれの課題を共有して、それぞれの方法論を交流し、学び合うというか、そんなことも大事にした運営に努めているところです。

以上です。

○議長（井上勝彦君）14番 中本浩精君。

○14番（中本浩精君）ありがとうございます。定期的な、年1回の学校訪問、それ以外にも要請訪問もあるということで、今ご答弁いただきました。そこで、教育委員も学校訪問していただいているということなんですけど、年間どれくらい教育委員は学校訪問させていただいていますか。

○議長（井上勝彦君）教育長。

○教育長（松田良夫君）教育委員方には、すべての学校に学校訪問していただくということは、今のところできていません。例えば、新しい校長が見えられたとか、何かちょっと

去年と違う、学校の様子が変わったというところについては必ず行っていただいて、状況を聞いていただくということをお願いしてきましたんですけれども、この前の教育委員会でも、できるだけ積極的に学校の様子も把握していただく機会をつくりたいというお願いもしてございますし、教育委員方にいろんな教育の課題をとらえていただいて、教育委員の立場からご助言いただくような、そういう機会も大事にしていく必要があるなというふうなお話は教育委員会です。教育委員方にも、できるだけ状況、課題把握していただき、いろんなご助言をいただきたい。それが私どもの願いでございます。

○議長（井上勝彦君）14番 中本浩精君。

○14番（中本浩精君）ありがとうございます。本当に教育委員の学校訪問を今以上に増やしていただきたいと思っております。できれば各校の現状を見ていただいて、いろいろご意見をいただきたいと思っております。

そこで、教育委員のご意見をいただく場なんですけど、先ほどもご答弁いただきましたけども、校長会、月1回されているとお聞きしております。そこで、これは要望になるんですけど、教育委員も入っていただいた、教育委員会と校長会の意見交換会、そこでさまざまな各課題といたしますか、それに対してもう一度掘り下げて、本当にどうしていったらいいかという、今、仮にそれをしてもらっていただければありがたいんですけど、もししていただけてなかったら、要望として、新しい取り組みとして、していただければありがたいんですけど、その辺については教育長、どう思いますか。

○議長（井上勝彦君）教育長。

○教育長（松田良夫君）現状では、教育委員方と校長先生方が定期的に話し合う機会を持つというところはできていません。ただ、教

育委員会議で、校長会の取り組みあたりはきっちり報告はさせていただいております。今、ご提案いただきましたように、校長会、校長先生方と教育委員方がひざ突き合わせて、いろいろ子どもの状況を話したりとか、教育のあり方を語ったりするのは大事な機会かと思っております。数多くはできないと思っておりますけれども、機会を見つけて、ここ、今こそするときやという、そういう状況の中で、そういう機会も教育委員方に提案するとともに、校長会にも提案して、そういう会を持つ方向で検討したいなど、今ご指摘いただいて考えたところでございます。ぜひ、そういう機会を持ちたいというふうに思います。よろしくお願いたします。

○議長（井上勝彦君）14番 中本浩精君。

○14番（中本浩精君）どうも前向きなご答弁をいただきまして、ありがとうございます。

本当に僕も今回の質問内容、すごく抽象的で、どのようにお願いしたらいいかというのが、自分でももう一つ確信が持てておりません。ただ、先ほど教育長もおっしゃっていただいたように、やはり新しい動きといたしますか、していただくことが一番大切ではないのかなと思っております。

それで、もう一つ、最後に質問をさせていただきます。

これはいろいろお聞きしている中で、教員の意欲や授業力、実践力向上のために、ブラッシュアップ講座というのを開いていただいているとお聞きしております。その中で、中心は若手職員と聞いております。これもいろいろしていただいたら、各研究会とか、いろいろと先生方も研修とかしていただいているのは、この間からもお聞かせさせていただいてよくわかっております。ただ、こういうブラッシュアップ講座ということで、若手職員にせつかくこういういい機会がありますので、

やっていたら別ですけど、これは要望になるかわかりませんが、中堅の先生、ベテランの先生もそこへまた入っていただいて、新しい先生方の、一人でも多くの、やはり実際、子どもを教育していただいているのは、授業を通して先生方だと僕は思います。そこで先生方がいかに考えておられるかということも、教育委員会のほうで意見を把握していただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（井上勝彦君）教育長。

○教育長（松田良夫君）つい数日前に、今年新たに開催するブラッシュアップ講座、これを開催いたしました。一人の校長先生と一人の教頭先生から、いわゆる学級経営のあり方、それを30分ずつお話しいたいて、そして参加者で協議する。そういう形で2時間程度のブラッシュアップ講座を開催いたしました。私も行きまして、まず先生方にお願ひしたことは、研修ということはすごく大事なことです。先生にとって研修はすごく大事なことです。教育公務員特例法というのがあるんですけども、「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」、そういう条文がございます。本当にいい授業をするために、教師として自分自身を高めるために、この研修というのは絶対に欠かせないと思ひています。

そこで、私がお願ひしたことは、十数人の参加があったんですけども、もっと誘って一緒に連れてきてよと。そしたら、その中でいろんな話し合いをするんですけども、いろんな情報がお互いに学び合えるということが大事だよという、ぜひたくさんのお僚を誘って来てくださいとお願ひしました。これから数回続けていくんですけども、だんだん参加者が増えてくる、そして、そこでの討論が活発になる、そういうふう働きかけをしな

がら、このブラッシュアップ講座のいわゆる効果と申しますか、本当に子どもたちの毎日毎日の授業の実践に結びつけるような研修にしていけたらいいなという願ひを持って取り組んでいきたい。そういうふうと思ひております。またご支援いただけたらと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（井上勝彦君）14番 中本浩精君。

○14番（中本浩精君）本当に前向きな取り組みをしていただいているということがよくわかりました。

最後に、何回も申し上げて本当に申しわけないんですけど、今以上の新しい取り組みの中から、本当に先生方の意見、そしてまた多くの皆さんのご意見を取り入れていただいて、それと教育に対して、今以上の熱い気持ちを持っていただくことが、本当に大切だと思ひます。本当に教育委員会が中心となって、児童生徒の立派な成長を導き出していただくことをお願ひ申し上げまして、質問を終わらせていただきます。よろしくお願ひします。

○議長（井上勝彦君）14番 中本浩精君の一般質問は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時57分 休憩）